

[赤嶺奈津江議員 登壇]

○6 番 赤嶺奈津江さん 一般質問 3 日目、ラストになります。質問も今回提案型がメインになっていますので、ぜひ前向きな答弁をよろしくお願いします。1. 町立図書館に電子図書の導入を。(1) 隣市町の図書館と比べ、当町の図書館は小さく、蔵書数も少ない。新しい図書館を建設することを現時点で検討しているか。(2) 広さをすぐに拡大することは難しいと思う。蔵書数については電子図書の提供による蔵書数のカバーをしてはどうか。(3) これまでに電子書籍・電子書籍図書館を検討したことはあるか。(4) 小中学校において、パソコンやタブレットを使つての授業も行っている。各小中学校の授業にも利用できると思うので、ぜひ電子図書の導入に向けて検討すべきではないか。

2. 学力向上と土曜日授業導入を問う。(1) 昨年の全国学力テストで沖縄県は大幅な躍進を見せた。当町の結果はどうだったか。(2) 学習指導要領の見直し等により、授業時数を確保するため、学校行事の簡素化などがある。しかし、実際には学校行事への取組は、個々の児童生徒の個性を伸ばす場としても大事な場だと思う。授業日数・時間を確保しながら、学校行事も行うために土曜日授業を検討してはどうか。

3. 人口増加に向けた町道整備を問う。(1) 南風原町の人口増加率は凄いものがある。アパートやマンション等の建設も多い。字・自治会のなかには道路が狭く、歩行者の安全を確保することが難しいところもみられる。そこで、字・自治会内の町道のチェックをし、再整備が必要な箇所を計画的に整備するべきではないか。(2) 新川区内も宅地開発が進み、かなりの人口増加が予想される。区内では、県道・国道整備工事が行われており、今後、区内の交通量の増加も考えられる。町道整備等が必要となると思うがどうか。以上、3 点です。よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 赤嶺奈津江議員の教育委員会に係るご質問にお答えします。質問事項 1 番の町立図書館に関するご質問でございますが、現在の図書館は開館して 4 年目であり、図書の蔵書数はまだ増やせる状況でありますので、図書の蔵書数の充実を図るよう努め、新たな図書館の計画はございません。(2) でございますけれども、現在、図書の増冊に段階的に取り組んでいるところであり、まず蔵書数の充実を図るよう努めてまいりたいと考えております。電子図書の導入につきましては、専用端末機のこと等、調査研究することが多いと考えておりますので、現時点では難しいと考えております。(3) でございますが、これまで電子書籍・電子図書館の検討はしておりませんが、引き続き蔵書数の充実を図るとともに、特色ある図書館づくりの一環として電子図書の導入についても調査研究をしていきたいと考えております。(4) でございますが、町立図書館の電子図書を各小中学校の授業に利用することについては、例えば専用の端末機あるいは周辺機器

の整備等コスト面もございます。そういったこともございますので実現可能かどうかこれから調査研究をさせていただきたいと考えております。

2. 学力向上に関するご質問でございますが、(1) 小学校では国語A問題、算数A問題・B問題において、全国平均を上回りましたが、中学校では県平均を上回ったものの全国平均には及びませんでした。(2)でございますが、児童生徒のゆとり感や学校・家庭・地域の連携、そして教員の多忙感の問題などまだまだ検討することがあります。校長会等の意見も聞きながら、今後議論をしていきたいと考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目、人口増加に向けた町道整備を問う(1)についてであります。ご質問にあります歩行者の交通安全対策等に向けては、地域の状況や問題等を踏まえながら、町道の点検チェックを検討し整備計画の立案に向けた取組を考えていきたいと思っております。(2)についてです。国道・県道整備に伴い、新川区区内における交通安全や交通規制・誘導などの対策を考える必要があると思っております。区内の実情を踏まえ、道路整備について地域と協議、調整していきたいと考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。それでは再質問させていただきたいと思っております。町立図書館についてですけれども、議会報告会でも図書館が小さいのではないかと、新しく造るべきではないかという意見もありましたし、他の町民の方からも人口のわりには小さいのではないかと話もありますけれども、やはり10.76平方キロメートルですか、南風原町は小さい町ですので、なかなか用地がないことは私も理解しております。そのなかで、関連しますのでトータルで1番は質問させていただきたいのですけれども、これから広さを大きくするわけにはなかなかいかないと思うのですが、蔵書数については現在の冊数と目標値、いつまでに何冊だというのがありましたら答弁をお願いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 生涯学習文化課長。

○生涯学習文化課長 神里 智君 お答えします。蔵書数につきましては、2014年12月現在で2万7,000冊です。可能は3万冊です。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。まだまだ余裕があるという答弁だったと思います。余裕をもってまだ3,000冊しか町の図書館には入れることができないとのことですので、この広さからしましたら、文明の利器と言いますか電子図書を導入していくべきではないかと思います。県内ではまだあまり普及していませんけれども、本土では私たちの町より小さい、人口的にも3万以下でも電子図書を導入している所もあります。学校間での共有と言いますか、今はタブレット・パソコンでも授業をしていますので、なかには専用の端末ではなくて普通のパソコン、タブレットで見ることができるわけですね。ですから学校で導入しているタブレットでも本を読んだりすることもできますし、せっかくある電子黒板を利用して皆で共通で授業のなかでも生かすこともできてくるのではないかと思います。ですから、これまでやったことがないとの調査研究ですけれども、早めにやるべきだと思います。県内の業者でまだこういう提供をしていない会社ですが今検討しているという所があったので、金額を聞いてみました。予定として人口3万人から5万人の自治体で初期導入費用が40万円、月額保証料金が4万円での提供になるそうです。ただこれは本の著作権もありますので本代は別になるそうですが、その本を手元に置くよりは安くなるという話をしていますので、今後検討としてはそういった導入も早めにやるべきではないかと思います。改めて聞かせていただきたいと思いますが、これから調査研究をするとのことですが、検討委員会を立ち上げてやるのか、それとも一職員で研究していくのか、どういう対応を検討されているのか、対応自体の検討もされているのかお伺いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 再質問にお答えいたします。電子図書の導入につきましては、ただいま検討されておられません。職員でどうするという話もまだされておられません。これにつきましては、図書館の職員に聞きますと、たいへん金がかかるだろうという話はしている状況であります。しかし、近年、先ほどご質問のなかにもありましたように、学校でも電子黒板、タブレットを導入してございますので、それで活用できるようにできないか。それから、お互いもタブレットを持ったり、無料の電子図書などもあって見る状況になっていますので、今後そういったことが個人的にも拡充されていくのではないかと考えます。それも含めて、早急にということでは考えておりませんが、町外、県外も含めてそういった所があれば調査研究をしていこうという判断でございます。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。年々システムも変わってきて、私が調べたところによりますと、業界の動きということで業界地図なるものも出てきています。

この電子図書を図書館に提供してくれる業者、大きいところだいたい 4カ所に区分されるようすけれども、そういったところもあったり、小さい会社でもそういうことができるような所もあるようですので、いろんなところに調査研究に行っていて、また図書館展という催し物も 5 月には恩納村でもあったようでそこで情報提供もされるということですので、ぜひ皆さんも勉強してもらって、今は 60 代、70 代の方でもタブレットでメールをしたり検索をされたり、町長もそのように作業しておられました。皆さん空いている時間に本を読むという作業がどこでもできる環境を整えていくことも大事だと思いますので、蔵書数を図書館に納めることができないのであれば、そういった手も考えて、本を読みたいという気持ちを満足させてあげられるようなサービス提供をお願いしたいと思います。これから調査研究されるということで前向きな答弁だと思っておりますので、ぜひ早めの対応をお願いしてこの質問は終わりたいと思います。

2 番目の学力向上と土曜日授業の導入を問うということで質問させていただきましたけれども、南風原町の結果は小学校で全国平均を上回って、中学校は県平均を上回っているけれども全国平均は下回ってしまっている。しかし、県内のなかではやはりがんばっている現場の先生方、教育行政にかかわってくれている皆さんの努力が出ているのかと思います。その点に感謝申し上げたいと思います。この学力向上ということで県からも方針があったかと思いますが、(2) ですが、結構学校行事が減らされたり、3 学期はあまり行事をもっていけないようにとか 1 つの行事にかける時間数を減らしてもらうようにという指導があったようなのですけれども、町は陸上競技だとかそういうものに力を入れていますので、そういった場で活躍する子どもたちは表舞台に出やすいのですが、文科系の子どもたちというのはこういった学校行事で表に出ることで自信をつける場にもなるのかと思います。そのなかで学校行事が減っていくのは寂しいなと思うのですけれども、実際行事にかかわる時間は少なくするけれども、学校で特別授業としてキャリア教育で外部の先生を読んでの授業だとか、交通安全の授業だとか、平和学習等で、特別な授業と言いますか科目に入っていない授業をやっている時間数もあるのですね。そういったものを土曜日の午前中に外部の講師の先生を入れての授業であれば、先生方にそんなに負担はないかと思います。毎週土曜日ではなくても、月 1 回、こういった授業を土曜日に入れて午前中で終わるということであれば、年間 12 カ月、月第一土曜日を登校日にした場合、48 時間という時間ができます。そうすれば、行事にかける時間も確保できるのかと思います。実際、キャリア教育だったり平和学習だったり、外部の方を招いての授業がほとんどだと思うのですね。そういったものを活用して土曜日に授業を行う、授業のなかにそういった取組をするということも前提に考えてもいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 学力向上の面で土曜授業という視点でのご質問でございます。

先般、この土曜授業につきましては、文部科学省でも法令を改正して教育委員会の判断でそういったこともできるとされております。それにつきましては、試行的にやられている学校があって、先ほど議員がおっしゃっていましたようにボランティア等を活用して授業をしていくというところと学習面にも力を入れていく総合学習面といったことでされていきます。町では主に通常の授業ではなくて、キャリア教育、総合学習といったところは外部の人材を生かしてという視点で多く取り組まれているようですが、町では学習支援本部事業、そのなかでどういったところを活用していますかという、学習支援本部を活用したり企業の人を活用したりということのアンケートが出ているようですけれども、町もそういうボランティア事業が 7 年目に入ります。そういった事業で多くの人材を活用して学校の授業に携わっているところもございます。現在、土曜授業というような視点もございしますが、まだまだそれについては検討する必要があるだろうと、そしてまた最初に教育長からお答えいただきましたように、学校現場、校長会等も学校の経営をなさる皆さんと相談をしながら、それについてはどうなるのだろうかという 2 年、3 年前ぐらいから始まっていますか、これも議論してまいりたいと考えています。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、鹿児島県では全自治体の教育委員会では、県から指示が出て土曜日登校になりました。一部ではなく全体が動き始めている所もありますし、文部科学省のホームページに出ている調査結果ですけれども、小学校で土曜日授業をやっていた学校が 2 万 836 校中 1,801 校は土曜日授業をしていたそうです。平成 26 年度の予定としては、倍の 3,565 校、実施割合としては 17 パーセントが土曜日に回数 は月 1 回とかばらつきがありますけれども、やる予定があるとなってきています。増加傾向にあるということは、全体がやる方向になっていると思うのですね。では土曜日に何をやっているかというアンケートのなかでも、午前中はお家でテレビを見たりゆっくりして、部活をやっている子は部活に行っているのですが小学生はお家にいることが多い。中学校になるとほとんどが部活、午前・午後に分かれている部活に行く、お家で DVD を見る、ゲームをやる、という子がほとんどだったのですね。なので、充実した学校生活というなかでは、同じ学校に行くのであれば月 1 回土曜日は学校に勉強しに行く。勉強も普通の授業ではなくて地域の方々がかかわってくれる総合学習のなかの一コマとして使ってもいいのではないかと思います。各学校でやるとまた問題ですけれども、町が一体となってやっていけば、必ず良い成績と言いますか地域とかかわる場なので子どもたち任せではなくてそういった場で地域の方々にかかわってもらうことは今でもあるのはありますが、言い方は悪いかもしれませんが無駄に午前中を過ごすよりも月 1 回学校に行ってそういった活動することは子どもたちに良い影響を与えるかと思えます。また、調査のなかでは先生方の多忙感が問題になっていますが、平日に総合学習を詰めるよりも土曜日に 1 回入れ

ることで若干変わってくると思いますし、負担感を減らすというのは子どもたちも一緒だと思うのです。1日6時間をずっとぎっしり詰めるよりも、土曜日の午前中月1回頑張ることで平日に余裕が出るとかというのも考えるべきではないかと思います。そういった点からも土曜日授業が県内ではまだそんなに話は聞きませんが、アンケートのなかでは小学校2校、中学校2校が平成26年度の予定で土曜日授業をしますとありました。平成27年度に入っていますのでもっと増えているかもしれません。新しいデータがありませんので、近隣市町村がやるやらないではなくて、南風原からやっていくことも大事だと思います。その点についてはいかがお考えでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 答えいたします。土曜日授業につきましては先ほどインターネットからの情報から授業の情報を述べています。土曜日に行った授業は、アンケートでいろいろあるようです。運動会や体育祭などもその土曜日授業に入れて報告している学校もありますし、保護者・地域の皆さんでの授業であったりとあります。町としましても先ほど申しましたように、率先というわけにはいかないでしょうけれども、やはり中の意見としては、果たして土曜日授業で教職員の多忙感が解消されるのか、余計に拍車をかけるのではないかというような議論もあるようです。学校を開いて子どもたちの授業をするのは地域の人たちの対応というわけにもいきませんし、同じく先生方も出校されて子どもたちを見守っている部分も含めて、最初にご回答申し上げましたように、学校現場、校長等とも議論を重ねながら、県内の取組や県外の取組の情報を収集しましてそれについては判断してまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 6番 赤嶺奈津江議員。

○6番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。南風原町では、南城市や八重瀬町、那覇市が二学期制を導入された際、それを選ばなかったと昨日でしたか答弁にありましたけれども、そういったなかでやはり南風原町独自の方向性があってもいいのかと思います。確認しましたら、就業規則など見ましても、どんなにやっても月2回が先生方への負担としては考えられるので、土曜日出るとしたら月2回までが限界だろうと言われているそうです。これは文部科学省からのデータなので確かだと思っておりますけれども、そのなかで私が1日と言うのは、そういった土曜日の過ごし方の考え方も改めるなかで地域の活動やそういったものも含めて子どもたちにかかわるチャンスを作ることです。平日かかわっても夕方からは皆ばらばらに帰って何もありませんが、土曜日なら私たちの記憶のなかでは給食を食べずに帰らなければいけないけれども、帰ったら何時に集合ねなどというのも楽しみだったのです。地域の公民館で集まったりして、今日はこうだったね、ああだったねと

話す時間も地域のなかであってよかったのではないかと思いますので、どうすれば先生方が負担感なくやっていけるかも課題だと思いますが、今だったら午前 4 時間で終わってお昼前には帰るとかそういったことも検討できるものではないかと思います。それを授業日数に入れて振替休日なしであれば、台風の時でも、また夏休みに出てこないといけない、三学期の授業に間に合わせるために必死にならなければいけないということもなくなるかと思えます。まず、現場の先生方の声も大事だと思いますので、ここで主事に現場の意見として聞きたいと思えます。よろしくをお願いします。

○議長 宮城清政君 教育指導主事。

○教育指導主事 宮里 豊君 すみません、今、何を聞かれているのかちょっと分かりませんでした。デビュー戦にして大失態をしています、もう一度。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午後 1 時 54 分）

再開（午後 1 時 55 分）

○議長 宮城清政君 再開します。

○教育指導主事 宮里 豊君 失礼しました。小学校に関してはお答えできないのですが、中学校に関しては皆さん部活動で出てきたりしている先生方もいらっしゃいますが、小さなお子様をかかえている先生方もたくさんいるので、そのへんはやはり先生方の負担感も聞きながら議論していきたいのですが、生徒としても今は週休二日制が定着していますので土曜日授業をやって逆に忙しくならないかと思えます。平日は時間のゆとりが出る分、補習授業が入ってくるような気がするのです。そういうことも含めて、どういう扱いをするか学校と相談しながら検討していったほうがいいかと思えます。よろしいでしょうか。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。やはり現場の先生方の負担感、子どもたちのあり方、いろいろ見ていかなければいけないと感じました。しかし、実際、世の中、一般企業、土曜日が休業というのがなかなかないのも実情です。社会に出てはじめて土曜日が仕事だということがないように、子どもたちにもそれが当たり前なのだと仕事の流れも教えなければいけないところもあるわけです。実際、大学生では土曜日に授業が入ってくることもあります。高校生でもあります。小中学校ではなかったことが高校では出てくるので、少しでもそれに慣れさせることは大人の責任かと思えます。今でも幼稚園、保育園、隔週でしか休めないところもありますし、そういった流れのなかでどういうふう

に分担していくのか、負担感の割合だとかその学習時間のもち方、また実際平日にこういった特別授業、総合学習をやっているわけですから、それを土曜日に回して普通の授業を確実に平日でこなしていくというのでも検討していくべきだと思います。教育委員会としても町としても学力向上プラス子どもたちの精神的な向上と言いますか、地域の貢献度も変わってくると思いますし、地域の皆さんがかかわることでだいぶ変わってくると思います。なかなか平日ではかかわれない、授業が終わってしまったら声をかけることもできないけれども、土曜日なら終わったあとにその講師の先生とも会話ができるかということでも地域の方とのかかわりが持てる時間になると思います。ぜひここは検討していただきたいと思います。実際、本土では土曜日に授業参観をして振替をしない学校もだいぶ出てきています。そういったところも早めに検討して動いていただきたいことをお願いしてこの質問を終わりたいと思います。

3 番目、人口増加に向けた町道整備を問うということで質問させていただきましたけれども、答弁では今後取組を考えていきたいということですが、実際、津嘉山も新川もですが、今後は照屋、そういったところにも人口増が始まっていますので、やはり町長ががんばっていただいた中学校まで医療費無料化、聞きますとマンション販売のときの売り文句にもなっているそうです。ここで子どもたちを生み育てると中学校まで医療費無料だよと、そういうことであればここに居を構えてもいいのではないかとセールストークにも入ってくるそうです。その分もあってか、やはり人口増加に凄いものがありますので、これまでたぶん、私が小学校の時まで新川も田舎なのでそんなに道も気にせず歩けたのですが、今は外部の方も通勤路として南風原町内をたくさんの方々が通過していきます。新川では外部から駐車場として借りられ、そこからバスで通勤する方もなかにはいらっしゃいます。そういった方々が入ってくる際、かなり交通量が多くて、新川から県道に出るまでにも信号待ちで何分もかかる、1 台、2 台も出られないこともあるのですね。そういったなかでやはり町道の整備では、新川を例に出しましたけれども、いろんな所で人口増加が始まっていますので、町道のあり方、交通量、歩行者の安全を守る点でも早めに計画を立てて、また空き地がある所はいつ宅地に開発されるか分からないですから、今後の町道整備も考えてぜひやっていただきたいと思います。整備計画については取組を考えていきたいとのことですので、早めに対応していただきたいことをお願いしたいと思います。

新川区内の交通規制、誘導等ですけれども、新川には真ん中に大きな県道が走っていて、また国道もきますので、交通の流れもだいぶ変わってくるかと思えます。また、今は宅地開発で人口増加もあり、世帯数でも今工事をしている所で 60 世帯ぐらい入るアパート、マンション建設ということで、それだけでも単純に考えて車の量が 60 台増えるわけです。それ以外に一戸建てが建売でしょうかハイツのようなかたちでできていますので、それだけでも 14 世帯ぐらいあると聞いています。それだけでも単純に考えて 74 台の車が一気に増えるわけです。そういったなかでの交通量について考えなければいけないと思いますので、早めに対応していただきたいと思います。新川は元の公民館のあたりが一周道路のような



形になっていますけれども、あそこは子どもたちが新川階段を下りて通学する道になっていますので、早めに安全対策をお願いしたいと思いますが、地域との協議の場をもたれているのかどうか、確認したいと思います。

○議長 宮城清政君 都市整備課長。

○都市整備課長 仲里 淳君 お答えします。ただいまのご質問、各地域との話し合いの場ということですが、現時点においてはまだそういう話し合いはもたれておりません。ただ、ご指摘のとおり町内で国道・県道の道路整備に伴って、通貨交通であったり通学路であったり、交通安全上心配するところです。そういった関係からも地域から点検、チェックをぜひということがあれば、その課題を十分踏まえて各地域との話し合いをもちたいと考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、新川もまちづくり部会というのが復活しまして、字内の道路や花の植栽等も検討しようということで全体的なまちづくりを話合っている途中であります。私もその一員でありますけれども、町道の確認、子どもたちの通学路の確認をしながら改善できるところ、また自分たちの知識ではなかなか補えないことがありますので、ぜひ町や識見がある方でどういう対策があるのか、子どもたちが安心・安全に通える町にできるように、住民が安心して暮らせる地域を作っていけるようにということで考えていますので、ぜひ協力いただきたいことをお願いしてこの質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。